

教委だより

No.430



令和2年12月21日

編集発行 富山県教育委員会
発行人 教育企画課長

「高志の国文学」情景作品コンクール・ 「ふるさとの優れた先人に学ぶ」作文コンクール表彰式



「高志の国文学」情景作品コンクール表彰式



「高志の国文学」情景作品コンクール作品展示



「ふるさとの優れた先人に学ぶ」作文コンクール
作品展示



「ふるさとの優れた先人に学ぶ」作文コンクール表彰式

今年で11回目を迎える「高志の国文学」情景作品コンクールと「ふるさとの優れた先人に学ぶ」作文コンクールの表彰式が11月12日（木）高志の国文学館で行われました。今年は、新型コロナウイルス感染症により、学校生活にも大きな影響が生じる中、ふるさと富山の魅力、先人の知恵や生き方への素直な感動・あこがれを瑞々しい感性で表現した素晴らしい作品が数多く集まりました。

表彰式では、情景作品コンクールの知事賞・金賞、作文コンクールの知事賞・優秀賞を受賞した一人一人に山崎康至副知事より賞状が授与され、代表して高岡高等学校2年山本侑奈さんがあいさつをしました。

Contents (主な内容)

- 「高志の国文学」情景作品コンクール
「ふるさとの優れた先人に学ぶ」作文コンクール表彰式 … 1p
- 「高志の国文学」情景作品コンクール知事賞作品 …… 2p
- 第32回富山県高等学校文化祭 …… 2p
- 中学校スポーツ交流大会駅伝大会 …… 2p
- 令和3年度 富山県立学校募集定員 …… 3p
- 学校レポート（富山市立藤ノ木中学校） …… 4p
- 学校給食とやまの日の取組 …… 5p
- 児童・生徒の問題行動・不登校等に関する調査 …… 5p
- 総合教育センターNOW …… 6p
- インフォメーション …… 7p
埋蔵文化財センター企画展「古代へのとびら2021」
県民カレッジ ～自遊塾～
映像センター 視聴覚教育研修会
県教育活動応援者ネット（T-EACHネット）の利用案内
放送大学 令和3年度1学期生の募集
- 特別展「BONE（骨）」-貝塚で知る生命の証- …… 7p
- とやま親学び研修会 …… 7p
- 令和2年度教育功労者等表彰式 …… 8p
- リレーエッセイ（富山県中学校長会長） …… 8p

「高志の国文学」情景作品コンクール

「ふるさと文学」に親しみ、郷土を一層深く理解しようとする気運を高めることを目的に「高志の国文学」情景作品コンクールを実施したところ、1,331点（文芸675、美術87、写真569）の応募があり、知事賞に8作品が選ばれました。

●文芸部門 知事賞

- 《中学生の部》
高岡市立高岡西部中学校 1年 鳥羽 董
- 《高校生の部》
高岡高等学校 2年 山本 侑奈

●美術部門 知事賞

- 《中学生の部》
富山市立三成中学校 3年 松田 哲太
- 《高校生の部》
富山中部高等学校 2年 平井 有佳

●写真部門 知事賞

- 《中学生の部》
小矢部市立大谷中学校 2年 加納 涼成
- 《高校生の部》
富山中部高等学校 1年 石原 剣

美術部門（中学生の部）知事賞



「絆」 題材：人生の約束

写真部門（高校生の部）知事賞



「生命の水」 題材：万葉集

「ふるさとの優れた先人に学ぶ」作文コンクール

ふるさとの優れた先輩達の生き方について学び、感じたこと、自分自身の将来の夢や希望などを書いた作文コンクールには、県内小学校より1,527点の応募があり、知事賞に2作品が選ばれました。

●知事賞

- 立山町立立山中央小学校 5年 高浦 圭輝
- 高岡市立博労小学校 6年 松本 咲智

第32回 富山県高等学校文化祭

第32回富山県高等学校文化祭が「今集う 逆境に咲き誇る 私たちの軌跡」をテーマに、11月13日～15日を中心会期として、富山県民会館をメイン会場に開催されました。今年度はステージ発表Ⅰにおいて、合唱専門部による男性合唱が披露され、美しいハーモニーと寸劇を交えたパフォーマンスに会場が大いに沸きました。展示会場を含め、入念な感染症対策のもと、日々文化活動に励む高校生の瑞々しい感性と澁刺とした躍動感が満ちあふれていました。



ステージ発表Ⅰでの男性合唱

TOYAMA2020中学校スポーツ交流大会駅伝大会を終えて

富山県中学校体育連盟 理事長 有澤 桂

新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった富山県中学校駅伝競走大会の代替大会を11月8日（日）に富山県総合運動公園で開催しました。全国中学校駅伝大会は中止となりましたが、日々、全国大会出場を目指し練習してきた男子15チーム、女子14チームが参加しました。

観客を陸上競技場内のみにしたり、選手たちの動線を配慮したりするなど、新型コロナウイルス感染症予防を講じた大会になりましたが、男子1位速星中学校、女子1位大沢野中学校をはじめ、参加した全ての選手たちは努力の成果を精一杯発揮してくれました。

今後の各種大会も、「with コロナ」となることが予想されますが、選手が安心して活躍できる場になるように尽力していきたいと思っております。今大会にご協力をいただいた、各機関、各団体の皆様、本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。



令和3年度 富山県立学校募集定員

- ◆ 全日制6,470人、定時制約960人、通信制約300人、専攻科約160人を募集します。
- ◆ 特別支援学校の高等部及び高等部専攻科の募集人員は、約280人に訪問教育の若干名を加えたもの、並びに幼稚部は若干名とします。
 - 令和3年3月の中学校卒業予定者数は、令和2年3月に比べ268人減の9,037人の見込みであり、全日制課程の募集定員は、令和2年度に比べ192人減の6,470人とします。
 - 定時制課程の募集定員は、令和2年度と同様とします。
 - 通信制課程の募集定員は、令和2年度と同様とします。
 - 専攻科の募集定員は、令和2年度と同様とします。
 - 特別支援学校高等部及び高等部専攻科、幼稚部の募集人員は、令和2年度と同様とします。

	募集定員	前年度比	備考
全日制課程	6,470人	-192人	
定時制課程	約960人	—	
通信制課程	約300人	—	
専攻科	約160人	—	
特別支援学校 高等部 及び高等部専攻科	約280人	—	訪問教育若干名を加える
特別支援学校 幼稚部	若干名	—	

令和3年度 富山県立高等学校全日制課程第1学年募集定員

学校名	学科名	募集定員		備考
		学級	定員	
入 善	普 通	4	160	自然科学コース 観光ビジネスコース
	農 業	1	30	
桜 井	普 通	3	120	帰国生徒5
	土 木	1	40	
	生活環境	1	40	
魚 津	普 通	4	160	
魚津工業	機 械	2	80	電子機械コース 化学工業コース
	電 気	1	40	
	情報環境	1	40	
滑 川	普 通	2	80	
	業 業	1	40	
	商 業	1	40	
	海 洋	1	40	
上 市	総 合	4	150	
雄 山	普 通	3	120	
	生活文化	1	30	
中央農業	生物生産	3	90	作物科学コース 動物科学コース 園芸福祉コース 環境緑化コース 生物工学コース 食品加工コース
	園芸デザイン			
	バイオ技術			
八 尾	普 通	4	160	福祉コース
富山西	普 通	4	160	
富 山	普 通	5	200	探究科学科
	理数科学	2	80	
	人文社会科学			
富山中中部	普 通	5	200	探究科学科
	理数科学 人文社会科学	2	80	
富山北部	普 通	3	120	体育コース約40
	くすり・バイオ	2	80	
	情報デザイン	1	40	
富山工業	機械工学	2	80	
	電子機械工学	1	40	
	金属工学	1	40	
	電気工学	2	80	
	建築工学	1	40	
	土木工学	1	40	
富山商業	流通経済	2	80	
	国際経済	1	40	
	会 計	1	40	
	情報処理	2	80	
富山いずみ	総 合	4	150	
	着 護	1	40	
富山東	普 通	6	240	自然科学コース約40
富山南	普 通	5	200	国際コース
呉 羽	普 通	6	230	音楽コース約30

学校名	学科名	募集定員		備考
		学級	定員	
小 杉	総 合	4	160	
大 門	普 通	3	120	情報コース
新 湊	普 通	3	120	
	商 業	1	40	
高 岡	普 通	5	200	探究科学科
	理数科学 人文社会科学	2	80	
高岡工芸	機 械	1	40	士木工学コース 環境化学コース
	電子機械	1	40	
	電 気	1	40	
	建 築	1	40	
	土木環境	1	40	
	工 芸 デザイン・絵画	1	30	
高岡商業	流通経済	2	80	
	国際経済	1	40	
	会 計	1	40	
	情報処理	1	40	
伏 木	国際交流	3	120	中国語コース 韓国語コース ロシア語コース
高岡南	普 通	4	160	人文科学コース
福 岡	普 通	3	120	英語コース
氷 見	普 通	3	120	
	農業科学	1	40	
	海洋科学	1	40	
	ビジネス 生活福祉	1	40	
砺 波	普 通	5	200	
砺波工業	機 械	2	80	
	電 気	1	40	
	電 子	1	40	
南砺福野	普 通	4	160	
	国 際	1	30	
	農業環境 福 祉	1	30	
南砺平	普 通	1	30	
石 動	普 通	3	120	
	商 業	1	40	
合 計		165	6,470	

※ 備考欄の「〇〇コース約△△」及び桜井高校普通科の「帰国生徒5」は、定員の内数である。
また、コース名のみは、2年次に開設するものである。

※ 詳しくは、県立学校課のHPをご覧ください。(http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/3003/index.html)

学校におじゃまして取材し、みなさんに各校の取組の様子をお届けします。

学校レポート

「われら日々に努めん われら心篤く生きん われら力強く生きん」 ～生徒信条、生徒たちの結束の言葉～

富山市立藤ノ木中学校

Toyama City Fujinoki Junior High School

富山市立藤ノ木中学校は、雄大な立山連峰を一望できる常願寺川の西岸に位置し、昭和63年に創立されました。校舎からの絶景に加えて校地には桜や松、寒椿など100本を超える樹木が生い茂り、自然豊かな環境の中で生徒たちは学んでいます。創立当初から情報教育や健康安全教育等、様々な研究を推進する一方、平成6年全国ジュニアオリンピック陸上競技大会、平成8年全国中学校陸上競技大会の女子4×100mリレーで優勝を果たすなど部活動も盛んです。

さて、藤ノ木中学校は「コミュニティ・スクール」の4年目を迎え、生徒が地域との様々な交流活動に参加し、体験的に学ぶ取組を実践しています。とりわけ連携の強い藤ノ木小学校とは、あいさつ運動や吹奏楽部の練習等を合同で行うほか、藤ノ木小児童クラブ主催のウインターフェスティバルでは生徒が考えたゲームコーナーを設けて小学生とともに楽しむなど、工夫のある交流を行っています。また、普段から地域との関わりも盛んで、校区内にある富山視覚総合支援学校の運動会には運営ボランティアとして参加したり、老人福祉施設訪問や幼稚園児とのお楽しみ会を行ったりなど、交流の輪を拡げています。

コミュニティ・スクールの一環として地域人材の参画を得て成り立っている活動もあります。週4日、昼休みの時間帯に地域の民生児童委員・主任児童委員が「ほっとルーム」と称した生徒の憩いの場となる教室を開室し、そこに訪れた生徒は委員の方々や友達と会話したり、ゲームをしたりすることで心を休め、元気に午後の授業へと戻っていきます。こうした支援による活動が15年以上続いており、地域の見守りによって「互いに認め合い、協力し合い、学び合う生徒」が育まれていると感じました。

この他の特徴として3年間を通したキャリア教育の実践があげられます。2年生が5日間、学校外で職場体験活動や福祉・ボランティア活動を実践する「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」と併せ、1年生では「プロに学ぶ『13歳の発見』」と称し、地域在住の美容師、建具師などの専門職を講師としてプロフェッショナルの流儀や働くことの意義について学ぶ学習を、3年生では「大学生に学ぶ『15歳の明日』」と称し、近隣の大学生から進路選択等の体験談を聴いたりそれについての質問をしたりすることで将来設計への意欲を高める学習を行っています。こうした系統的なキャリア教育を通して、将来の夢や目標をもち、主体的に人生を切り開いていく力を育てています。

一方、生徒が主体的に推進する活動として体育大会や文化活動発表会、花壇づくり等の教育活動にも学校が一丸となって取り組んでいます。

訪問時には先生方が「コロナ禍にあっても体育大会が開催できて本当によかったです。入学式が終わるやいなや臨時休校となり、とりわけ1年生については中学生としての自覚やモチベーションをどう高めるか悩みました。しかし、体育大会を機に学校生活に取り組む姿勢ががらりと変わりました。『真剣に私たちを引っ張ってくれた先輩たちのように自分もなりたい』と感じたようです。」とうれしそうに話して下さったことが印象的でした。

この体育大会は、藤中生の心のよりどころである生徒信条「われら日々に努めん われら心篤く生きん われら力強く生きん」の下、生徒の心が一つになったかけがえのない機会だったのではないかと思います。一つのことをやり遂げ胸を張る生徒たちの姿が目に見え、頼もしく成長し続ける生徒たちの今後の活躍が楽しみです。



藤ノ木小学校との合同吹奏楽練習



ウインターフェスティバル「なぞなぞコーナー」



「ほっとルーム」でのふれあい



視覚支援学校運動会ボランティア



1年生：「プロに学ぶ『13歳の発見』」



3年生：「大学生に学ぶ『15歳の明日』」

学校給食とやまの日の取組

県教育委員会では、「富山県食育推進月間」に合わせて11月中の一日または数日を「学校給食とやまの日」とし、県産食材を積極的に使用した学校給食を実施することとしています。県内の各小中学校では、市町村や学校給食関係者の協力を得ながら、地域の食材をふんだんに取り入れた、特色ある献立が提供されています。

11月11日（水）の学校給食ふなはしの日の舟橋小学校の献立は、村から提供された舟橋村産の有機米、にんじん、白ねぎ、ミディトマト、みそを使った「ごはん、牛乳、豚みそステーキ、ピーナッツ和え、ミディトマト、白ねぎのクリームシチュー」でした。献立のうち、「白ねぎのクリームシチュー」は、地域の白ねぎ農家について学習をしている3年生がリクエストをしました。当日は、3年生が収穫した白ねぎを使って調理が行われ、トロトロしたあまみのある白ねぎ入りのシチューをおいしく味わいました。

今年は、コロナ感染予防から、生産者を招いての会食を実施することはできませんでしたが、有機米の生産者の方からお話を聞いたり、給食委員会がクイズを作って放送で地域の食材を紹介したりして、全校児童で地場産物や地産地消のよさについて理解を深めました。



献立の様子



ネギの収穫の様子

令和元年度 児童生徒の問題行動・不登校等に関する調査

— いじめ・不登校・暴力行為 —

文部科学省の「令和元年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果（県内国公立学校分）が10月に公表されました。<文部科学省の公表データのみ記載>

【いじめの認知件数】

（ ）は、本県・全国の1,000人当たりの認知件数

年 度	小 学 校	中 学 校	高 校	特別支援学校	合 計
R元	1,049	526	154	31	1,760(県16.5 国46.5)
H30	794	455	124	27	1,400(県12.8 国40.9)

いじめの認知件数は、H30年度と比べ、全校種で増加しました。1,000人当たりの認知件数は、全国平均を下回っています。

【不登校児童生徒数】

（ ）は、本県・全国の1,000人当たりの不登校児童生徒数

年 度	小 学 校	中 学 校	高 校
R元	425 (県8.5 国8.3)	846 (県31.1 国39.4)	480 (県17.5 国15.8)
H30	334 (県6.6 国7.0)	801 (県28.7 国36.5)	457 (県16.3 国16.3)

不登校児童生徒数は、H30年度と比べ、全ての校種で増加しました。1,000人当たりの人数は、中学校で全国平均を下回り、小学校、高等学校は全国平均を上回っています。

【暴力行為の発生件数】

（ ）は、本県・全国の1,000人当たりの発生件数

年 度	小 学 校	中 学 校	高 校	合 計
R元	554 (県11.1 国6.8)	283 (県10.4 国8.8)	63 (県2.2 国2.0)	900 (県8.5 国6.1)
H30	404 (県7.9 国5.7)	298 (県10.7 国8.9)	66 (県2.3 国2.1)	768 (県7.1 国5.5)

暴力行為の発生件数は、H30年度と比べ、小学校で増加し、中、高校で減少しました。1,000人当たりの発生人数は、全校種で全国平均を上回っています。

日ごろから規範意識の醸成や自己肯定感の向上、教育相談体制の充実等の取組により、問題行動や不登校の未然防止を図るとともに、児童生徒をきめ細かく見守り、家庭や専門家、関係機関と連携して早期発見・早期対応に努めることが大切です。

総合教育センター NOW

教育研修部

中堅教諭等資質向上研修 社会体験研修

社会体験研修は、例年、県内の企業・施設に受け入れていただき、幅広い社会の人々との交流や顧客対応の経験を通して、社会の構成員としての視野を広げ、豊かな人間性や社会性、コミュニケーション能力等の資質を伸長することを目標としてきました。

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、富山経済同友会のご協力をいただき、2名の講師を当センターにお招きして研修を開催しました。10月28日には株式会社牧田組 牧田和樹代表取締役社長から、これからの組織運営に必要な資質と子供たちが身に付けるべき力についてご講義をいただきました。11月10日には株式会社ソシオ 寺下利宏代表取締役社長から「生存率2%の事業運営」と題してご講義をいただきました。また、両日とも県スポーツ振興課富山マラソン推進班の担当者から、富山マラソンを通じた経済振興と地域連携についてご講義をいただきました。

受講者の感想には、「『共感と信頼』が人と人のつながりの中で重要である。講師の先生を通じ、大切な言葉と出会えた」「相手の立場を考えることができる『心』を養うことが大切であることが分かった」「思いやりをもって相手に接することを子供たちに教えてきた。自分が行ってきたことが間違いではなかったと、ほっとした」といったものがありました。

代替研修としての講義となりましたが、多くの方々にご協力をいただき有意義な研修となりました。



講義「リーダーシップを解き明かす」



講義「富山マラソンでおもてなし」

科学情報部

「教育資料室」・「カリキュラム支援室」

～教材研究・授業づくり・児童生徒支援のために活用してみませんか？～

富山県総合教育センターの3階に、「教育資料室」と「カリキュラム支援室(資料室分室)」があります。通常の図書館と違い、教育関係に特化した「資料室」・「支援室」です。

「教育資料室」には、県内各学校の「実践報告書」、教育研究のための「専門書」「教育関係雑誌」等をはじめ、各県の教育センターや大学の紀要、各種教育団体の研究資料等をそろえています。令和2年10月現在で、9万5千冊あまりの書籍・文献を有します。

授業の実践報告書や学習指導案等もたくさん保管してありますので、「教材研究」「授業づくり」に大いにご活用ください。

なかでも、発達障害等の児童生徒を支援するための書籍・文献が充実しています。また、最新の教育関係雑誌も取り揃えております。ぜひ一度、お越しください。お待ちしております。

「カリキュラム支援室」は、教育資料室の分室として、「各校種の教科書」「学力向上拠点校の研究報告書」「スーパーサイエンスハイスクール関係の資料」等を展示しています。

富山県総合教育センターのホームページで、「教育資料」をクリックすると、「教育資料データベース」の検索ができます。15万件あまりの書籍や文献の目録が登録されています。閲覧や貸し出しも行っていきますので、是非ご活用ください。(利用時間：平日の8時30分～17時)



教育資料室(教育ビル3階)



<http://siryo.el.tym.ed.jp/>

教育相談部

不登校児童生徒に対する支援推進事業

適応指導教室との連携

教育相談部では、「不登校児童生徒に対する支援推進事業」として、市町教育センターと連携を図り、不登校児童生徒の社会的自立を支援する事業を実施しています。事業の中で適応指導教室への支援として、広域・地域訪問指導員による適応指導教室への訪問、適応指導教室担当者の研修会を実施しています。

訪問指導員による適応指導教室訪問

県内を4つのブロックに分けて配置した地域訪問指導員4名と県内全域をカバーする広域訪問指導員1名が、年2回程度適応指導教室を訪問し、下記の支援を行っています。

- ①児童・生徒への支援(カウンセリング)
学習支援や個別相談、グループワーク等を通して、児童生徒に応じた育ちの支援を行っています。
- ②指導員への支援(コンサルテーション)
教室運営や児童生徒支援についての懇談を通して、指導員の教育支援活動を支えています。
- ③教室間交流の促進(コーディネーション)
各教室の実践や支援方法の紹介を通して、教室間のノウハウの共有や交流促進を図っています。

適応指導教室等担当者研修会

不登校児童生徒への理解を深め、今後の支援に活かすことができるよう、適応指導教室の指導員、指導主事等が標記の研修会に参加しました。

講師 東海大学 教授 芳川玲子先生
演題 「適応指導教室を利用する不登校児童生徒への援助・指導の充実」

社会的自立に向けた支援について、具体的な事例を通して講演していただきました。

不登校の「きっかけ」「要因」から見立てをすることの大切さ、自己肯定感、自己効力感を育むための関わり方、家庭への支援、学校との連携、安心できる居場所づくり等、様々な視点から振り返ることができました。



インフォメーション

所在地 内容 対象 募集人数 応募要領
 募集締切 参加料 ホームページ 問い合わせ

入館
無料

富山県埋蔵文化財センター

☎076-434-2814

企画展

「見て、知って！とやまヒストリー2021」

期日 令和3年4月16日(金)～令和3年9月26日(日)

※金曜日 4月16日(金)を除く

県内各地から、貴重な出土品を時代順に紹介し、子供から大人まで楽しく観覧しながら、考古学を基礎から学べます。楽しく歴史を学びましょう。社会科の学習にもご活用ください。



来館学習の様子

利用
案内

公益財団法人富山県ひとつくり財団

☎076-444-2000

富山県教育活動応援者ネット

～T-EACHネット～

学校現場での経験や特技を生かしたい退職教員等を登録してあるサイトです。教員の負担軽減や子ども達への活動支援に積極的にご活用ください。(県教委委託事業)



T-EACHネット
ホームページ

自遊塾
県民教授
募集

富山県民カレッジ

☎076-441-8401

令和3年度県民カレッジ自遊塾 県民教授募集

期日 令和2年12月中旬～令和3年1月15日(金) 必着

自主的に企画・発表したい、学んだことを生かして教えたい、学びを深め、交流したいあなた。県民カレッジ自遊塾の県民教授(ボランティア講師)になりませんか。

☎ <https://www4.tkc.pref.toyama.jp/toyama/>

自遊塾

県民教授募集

参加者
募集

富山県映像センター

☎076-441-8455

富山県視聴覚教育研修会 期日 令和3年2月4日(木)

富山県教育文化会館 5階

①映像教材等の紹介と活用例

②講演「コロナ禍でのNHK for School活用とこれからの可能性」(予定)

講師 NHK制作局 第一制作ユニット チーフ・プロデューサー 大本 秀一 氏

※ 詳細は各学校に文書でご案内します。

☎ <https://www4.tkc.pref.toyama.jp/eizou/>



令和元年度 開催風景

入学生
募集

放送大学富山学習センター

☎0766-56-9230

令和3年度

第1学期生(4月入学生)の募集

※切 3月16日(火) 必着(インターネット出願可)

※放送授業開始: 4月1日(木)

放送大学は、BS放送やインターネットを通じて、教員の皆様、仕事に役立つ科目を1科目から学べる通信制大学です。上位免許や特別支援学校教諭免許等のほか心理学に関する科目も開講しています。



放送大学 検索

特別展「BONE 骨 ―貝塚で知る生命の証―」

埋蔵文化財センターでは、「BONE 骨 ―貝塚で知る生命の証―」(会期: 令和2年10月2日～令和3年3月7日)を開催中です。

日本海側最大級の貝塚・小竹貝塚。縄文時代前期(約6,000年前)としては全国最多の91体の人骨が出土したことで一躍有名になった遺跡です。縄文人たちは貝塚を墓地としても利用していました。貝塚に埋葬された縄文人やイヌの骨からは、縄文時代の暮らしや習慣、病気などがわかります。最近の科学分析の成果も展示しており、骨から縄文人やイヌに迫ります。

また、潟湖の貝塚である小竹貝塚と海の貝塚である上久津呂中屋遺跡から出土した動物の骨を展示し、比較することで縄文時代の人々の食べたものや周辺の環境について学ぶことができます。



「とやま親学び」研修会Ⅰを開催

「親学び講座」は、「小中推進リーダー」「小中推進スーパーリーダー」「幼保推進リーダー」によって、普及・啓発活動が行われています。

それらのリーダーを対象として、9月19日(土)、27日(日)、10月3日(土)に県内4会場で「『とやま親学び』研修会Ⅰ」を開催し、のべ72名が受講しました。

研修会では、大学教授等による家庭教育に関する講義や、「親学び講座」の演習、情報交換等を通して、推進リーダーとしての資質や、講座を運営・進行する技術の向上を図りました。新型コロナウイルス感染症対策として、フェイスシールドも活用しました。会場毎に研修内容を変えたことにより、目的に応じて会場を選んで参加された方もいました。「『とやま親学び』研修会Ⅱ(スキルアップ編)」は、1月に開催する予定です。

子供たちの健全育成のためにも、多くの保護者の方々に「親学び講座」に参加していただきたいと思います。



家庭教育に関する講義



「親学び講座」の演習

令和2年度 教育功労者等表彰式

11月2日(月)、令和2年度富山県教育委員会教育功労者等表彰式が県民会館で行われました。

この表彰は、学校教育や社会教育、文化やスポーツの分野で優れた業績をあげた方を表彰するもので、今年は、59個人と9団体が選ばれました。

学校関係では、優良教職員として29名、優良若手教職員として5名、優良教職員組織として1団体、優良学校として2校、優良教育団体として1団体、優良児童生徒として4名が表彰されました。

伍嶋教育長は式辞で、「今日、教育県富山として全国に誇りうる教育を展開しているのも、皆様方の比類のない使命感と不断の努力の積み重ねに負うところが大きい」と功績をたたえられました。

表彰された皆様の、今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。



令和2年度表彰式での受賞者の皆様



リレー エッセイ

「当たり前」って？

富山県中学校長会長 射水市立新湊中学校長 金谷 真

今年は、「当たり前」を考えさせられる1年だった。

中学校では、顔を寄せ合い意見を交わし学び合う授業、友達と談笑する休み時間、和やかに会話しながら食を楽しむ給食、声を掛け合い切磋琢磨する部活動、この風景が「当たり前」だった。今年は、この殆どが制限されただけでなく、登校すらできない時期もあった。

1学期終業式、生徒代表の「休校中、寂しかった。みんなと会えた時、うれしかった。感謝した。」との発表に、多くの顔が見られた。学習発表会では、生徒会が創作劇「アタリマエ。」を通して、「『当たり前』って奇跡？『当たり前』が幸せ？」と投げかけた。生徒たちは自分を振り返り、共感していた。

現在も、全国各地で新規感染者が発生しており、一人一人に感染防止への行動が求められ、大人も判断に迷いながら日々生活している。先が見通せない今だからこそ、子供たちには、家族や周りの人々と共に生きていることの幸せを感じてほしいと思う。

学校では、マスク着用の徹底等、感染防止対策を行いながらの教育活動が「当たり前」になってきている。「当たり前」は、時代や社会とともに変化するものであろう。我々大人には、「新しい当たり前」にしなやかに対応する姿や「よりよい当たり前」をつくろうとする前向きな姿勢が求められていると、今改めて思う。



■執筆者プロフィール

射水市出身
H25 射水市立放生津小学校長
H26～27 富山県教育委員会教職員課主幹
H28 富山県教育委員会小中学校課教育力向上班長
H29 富山県教育委員会小中学校課長
H31 富山県教育委員会教育参事・小中学校課長
R元 射水市立新湊中学校長
R2 富山県中学校長会長・射水市立新湊中学校長